

あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

第6回 議事概要

日時	2023年12月20日(水) 13:30~18:00
場所	下関市役所 5階会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：泉、吉田、木村隼、木村大、清原、鈴木、安本 専門家：熊谷、長町、榎本、大橋、井上 地域事業者：郷田、湊、竹内、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 前田、田中、平山、村上、上野

1. 交通・駐車場に関する検討状況

(1) グリスロ実証の結果概要

下関市港湾局より資料に基づき説明の上、議論

(今後の実施結果の詳細分析に向けて)

- モビリティに乗った人の分析とともに、乗れなかった方がどのくらいいたか、需要に応えられていたか、利用できなかった方の考察も必要。市内の利用者が多いとの結果が出ている状況だが、それは発信手段や利用の待ち時間の長さが効いた結果という可能性もある。市外の人々の利用動線としての検討が必要であり、利用できなかった方の考察も重要。
- 利用目的は週末か平日かでも変わってくると思うので、特に平日にどんな目的で利用されたかがわかると有意義ではないか。
- 実証でなく実際に運行する場合には支払い金額も重要であり、どのくらいの収益を上げることができるのか、今後検討が必要。

(マスタープランとの関係性)

- 今回の社会実験はルート等の調整がデザイン会議立ち上げと並行して進んでいったため、まずは下関駅と唐戸エリアを結ぶ交通手段へのニーズ確認が中心になった。一方で、今後、類似の実証を行う場合には、以下の点も事前に調整していけると良い。
 - ・海峡エリア内の周遊の手段としての可能性
 - ・モビリティのルート(護岸側が良いかグリーンベルト側が良いか)
 - ・細江駐車場を含む周辺駐車場の利用促進策としての可能性(今回も細江駐車場への停車は行っており、一定の利用は確認)
 - ・ニーズを検証したいターゲットにあわせた情報発信方法

(2) 中心市街地交通円滑化対策業務(中間報告)

下関市交通対策課より資料に基づき説明の上、議論

- ピーク時の需要との関係で、一定の駐車場整備が必要となる可能性があるため、グリーンベルトの構想なども見据えながら精査していけると良い。

- 市としては、しっかりと渋滞対策をしていく・渋滞が解消されるように取り組むというのが基本スタンスである反面、現実的にはすべての課題を駐車場のキャパシティ増で対処する話でもない。将来のための遊休地がピーク時だけのための駐車場整備により減ってしまうことは開発上マイナスな面もあるし、ダイナミックプライシングなど運用による工夫もあり得る。総合的な判断が必要になってくるので、あまり数字だけが独り歩きしすぎないようにすることも必要。
- 推進会議で整理した交通対策の全体像とも突き合わせながら整合性が取れるように計画を仕上げていく必要がある。また、渋滞対策の目標をどの水準に置くか、という議論も必要であり、幅広い関係者の視点が入る推進会議を活用しながら打ち出していけると良いのではないか。

2. しのせき海峡グルメフェス2023について

下関市産業振興課より資料に基づき説明の上、議論

- 今年度は海峡夢ひろばの工事の関係で、海峡エリアの港湾緑地に場所を移したが、例年と印象はずいぶん違ったのではないか。参加した印象として、来場者の滞在時間も長かったように感じた。
- グルメフェスのパンフに付けた割引券が観覧車や海響館で活用されていることから、周辺への回遊についても一定の効果があったと想定される。唐戸市場もこの日は忙しかった。
- 配置については、ステージを写真で撮るには映える配置だが、海を楽しむという観点からは逆の配置。また、海側に車が停まってしまって海を眺めて滞在するという可能性を阻害してしまう時間もあった。環境も含めた魅力づくりという視点に立った場合、イベント全体の配置がどうだったか、という振り返りが必要。
- イベント利用の際、電源と水回り、トイレが課題になりがちだが、その点はどうだったか。
→今回は、電力はすべて発電機で賄った。トイレに関しては特にクレームは無かった。
- 日差しに関しては何か声があったか。
→特になかった。木陰があったことと下が緑地であることで快適性が上がったのではないか。

3. 海響館からの提案事項

海響館より資料に基づき説明の上、議論

- 夜間の社会実験と合わせた海響館との連携可能性はどうか。常設的な魅力に結び付けられると良い。
→海響館としては、ペンギンをはじめとする生物の生育環境への配慮が必要。イルミネーション水族館や夜間営業に関しては継続のための予算次第な面もある。
- 外観にも、もっと楽しさ・可愛さなどの要素があるとより良いのではないか。植物や寄贈物、小山のようになっている箇所など工夫できる箇所もあり、また、照明やファニチャー等の演出を検討できる箇所もあるのではないか。
- すぐに工事が難しくても、社会実験や低予算で対応できるものなどを検討し、リニューアルオープンに向けて少しでも実施できると良い。フォトスポットやモニュメントなどそこまで予算のかからない仮設的な内容で取り組みつつ、統一感を削ぐ一要因となっている懸念のある寄贈品については、設置箇所をまとめていくような工夫はリニューアルに向けて実施するなど検討できると良い。

- 魚釣り体験を付随させるなど非常に面白いアイデア。無償でやる企画だけでなく、事業化できるように検討していくことが継続性に結びつくが、そのためには、企画そのものの位置づけ（教育目的での実施か否かなど）もあわせて調整していけると良い。

4. 夜間景観実証の概要

長町委員より資料に基づき説明の上、議論

- いったん実施事項を洗い出した上で、今年度どこまで実施するか、別途検討している大噴水の検証に要する費用等を踏まえて精査していく。噴水の実証については、関係機関との確認がメインの目的となるので、一般市民向けの実証とは少し性質が異なると想定される。
- 海響館の外構照明の改善に関しては、リニューアル工事の開始や、夜の水族館を実施する期間との兼ね合いなどを調整していく必要がある。入口を含めたワクワク感の演出も検討する。

5. 唐戸市場の今後の在り方に関する提案検討夜間景観実証の概要

大橋委員より資料に基づき説明の上、議論

- 市場に配慮されたプランと評価できる。
- 市場としては、基本的には魚を売っていくことがベース。観光目的もあって良いのだが、卸・仲卸の強化は必要。観光目的に比重が行き過ぎると、良い魚が観光目的に回ってしまい、市内の小売店舗との取引が減ることになり得る。それが積み重なると市場自体が選ばれない。関係者によっても意向が異なってくる面があるが、荷受けとしてはまず卸・仲卸の強化が必要。
- 11月の下関漁港の魚祭りでは3万5千人来ている。なぜ来るか。安く魚が買えるから。あと駆け引きが出来るから。そういう面白さがあれば市民も集まってくるのではないか。「市場飯」みたいなものも魅力的。昔はあったが、なくなってしまった。そうした魅力づくりも大切だし、そうしたものがないと、市場関係者も朝食が食べられない、コーヒーを飲むところもない、という状況になってしまう。
- 荷受けだけでなく様々な関係者が存在し、全体を見る立場は業者連合。業者連合全体の視点としては賑わいも重要であり、担い手も高齢化するなか、どうやって活力を取り戻すかを考えていく必要がある。
- 市場関係者だけでなく下関全体がビジョンを共有して盛り上がっていけば、活路が見えてくると思う。まち全体の問題と捉えて取り組んでいきたい。市場そのものが元気になることが一番だが、魚離れや水揚げ量の減少など取り巻く環境変化もあり、市場関係者だけでは厳しい。新しい主体も含めて考えながら、まち全体で活力を得ていけないか。
- そうした意味で「唐戸文化市場」を目指すプランは良いものと思うが、あくまでも理想案という面はあり、今後、公設市場としての位置づけや組合のルール等とも突き合わせながら検討を深める必要がある。

→今回提示されたプランをベースに、今後、業者連合の会議にも伺って意見をいただいく。

6. A地区事業の検討

下関市港湾局より資料に基づき説明の上、議論

- 再公募に向けては、改めて公募に手が上がるように積極的な検討をしていかなければならない。幅広くアンケートを進めると同時並行で、個別に事業者ヒアリングを行っていくことも重要。
- 次年度に向けてはたくさんヒアリングが出来ることが望ましいが、今年度はまずは対象を絞り込み、関係者のネットワークも活用しながら個別に意見交換を重ねられると良い。
- アンケートは2月中旬を目途に岬之町に関する検討とセットで進める形になるので、個別ヒアリングもそこを目途に取り組んでいく。

以上